

救急部門に配属された新卒看護師の 就職半年後における 倫理的問題への対応能力

森木ゆう子 名古屋市立大学看護学部研究員
明石恵子 名古屋市立大学看護学部
江口秀子 大阪青山大学健康科学部
伊藤美和 名古屋掖済会病院
大川滋美 名古屋市立大学看護学部

研究背景

救急医療場面での倫理的問題

救命と延命の認識の違い

代理意思決定者の適切性

治療後の病態の不確かさ

患者の意向の確認困難

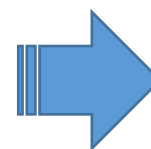
短時間の治療方針の決定

教育

看護倫理

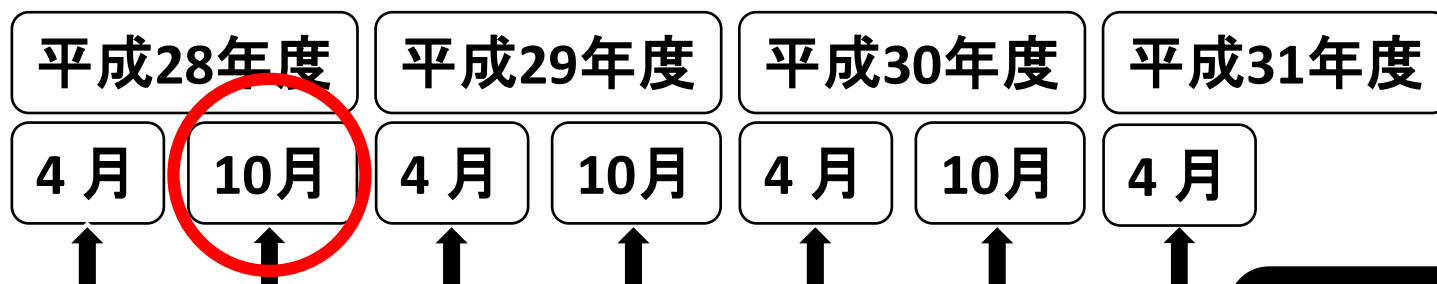
臨床倫理

生命倫理



看護師の倫理的行動修得プロセスは明らかでない

救急看護師の倫理的行動修得のプロセス 研究の概要と本研究の目的



対 象: 救急部門に配属された看護師

**データ: 倫理的行動に関する質問紙調査
倫理的行動に関するメモ
倫理的行動に関する面接**

倫理的行動
修得プロセス
の解明

倫理的行動に関する
教育方法の検討

本研究の目的

新卒看護師の就職半年後の倫理的問題への対応能力について倫理的行動の4要素を参考に明らかにする

倫理的行動の4要素

倫理的 感受性

- 内在する課題を少しのヒントから見出す能力
- 気付き、洞察力
- 直感、ジレンマ

倫理的 判断

- 事実から論理的な結果を導き出す過程

倫理的 動機

- 道徳的価値への関心

倫理的 特性

- 忍耐力
- 打ち込む強さ
- 勇気

データ収集と分析方法

データ収集方法

① 就職半年後に、倫理行動メモの記載を依頼

- 半年間で感じた倫理的ジレンマとそれをどのように感じて、どう行動したのか

① 上記①の内容をもとに、倫理的行動の4要素とその影響要因に関する半構造的面接を実施

分析方法

- 倫理行動メモと許可を得て録音した半構造的面接内容から作成した逐語録を総合
- 倫理的行動の4要素を参考に質的記述的に分析

倫理的配慮

- 研究者の所属施設の研究倫理審査委員会および研究協力者の所属施設の責任者の許可を得た
- 研究協力者に対しては、研究目的と方法および倫理的配慮（自由意思による研究への協力と同意後の撤回の自由、個人情報保護、データ管理方法など）を説明し、書面による同意を得た

研究協力者9名の背景

大学卒
2名

専門学校卒
7名

基礎教育での倫理教育あり
4名

基礎教育での倫理教育なし
5名

倫理的ジレンマを述べる
8名


述べず
1名

抽出した倫理的ジレンマの内容

- 患者の安全を理由に行う抑制
- 自殺企図患者に対する蘇生処置
- 治療や業務を優先し患者の意向に沿った看護ができないこと
- 余命の短い患者への苦痛を伴う検査の実施
- 患者の意思よりも家族の意思が優先されることへの疑問

A看護師の語り

患者の安全を理由に行う抑制

- 安全のために暴れる患者を抑制する必要性を頭ではわかっているが、抑制をせざるを得ないことにジレンマを感じる
 - 抑制の判断基準はなく、そのときの状況で感覚的に判断している
 - 抑制の判断はリーダー看護師に相談して決めている
 - 抑制について自己の判断とリーダー看護師の判断が違ったときは、リーダー看護師の判断が正しいと思う
- 
- 抑制はやむを得ないことと自分自身に言い聞かせている
 - 自分の行動の決定を先輩看護師に委ねている

B看護師の語り

自殺企図患者に対する蘇生処置

- 蘇生後、後遺症を残しながら生きることの意味があるのか？
- 「これでいいの?!」と思ったが、倫理的な問題とは捉えていなかった
- 病気を持つ父が死を望んだとき、母が「蘇生しない」と語っていたことを思い出した
- 学生時代の授業で安楽死や尊厳死を考える機会があった



- 問題を直観的に捉えていることから、倫理的感受性は持っているが、その根拠が個人の価値観によるものが大きい
- 倫理問題の理由を説明する能力が不十分である

倫理的ジレンマを感じた場面における 就職半年後の新卒看護師の判断と行動

判断が違ったときは
リーダー看護師の判断が正しい

先輩に相談しないと不安だ

**自分の行動の決定を
先輩看護師に委ねる**

自分が患者の家族であった時の
体験と重ねて考えている

患者を優先した方がよいことは
わかっているが時間内に
業務を終わらせないと
先輩に迷惑をかける

**看護師としての価値観より
これまでの生活背景や
職場環境から築かれた
個人的価値観が先行する**

就職半年後の新卒看護師の倫理的問題への対応能力

倫理的
感受性

倫理的
判断

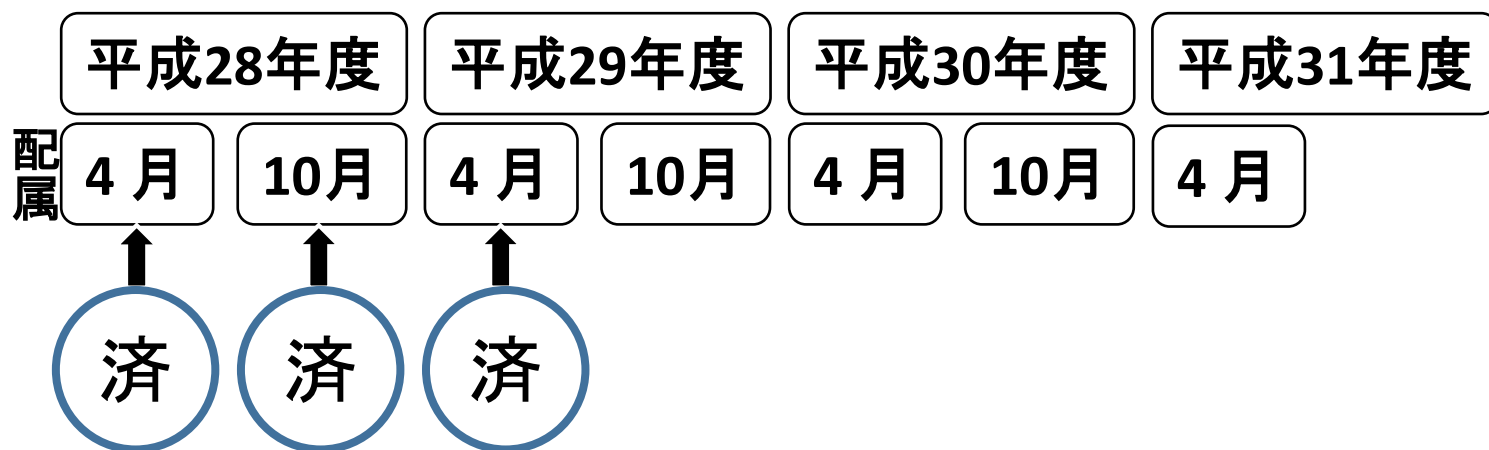
倫理的
動機

倫理的
特性

- 倫理的判断に必要な基礎的情報を整理する能力が未熟
- すべて先輩看護師に報告・相談をしている状況

- 看護師の専門的価値より個人の価値観や感情を優先
- 未熟

救急看護師の倫理的行動修得のプロセス 研究の概要と今後の課題



今後の課題

救急部門に配属された新卒看護師の倫理的問題への対応能力がどのように変化するかを追跡調査する

謝辞

- ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます
- 本研究は、科学研究費助成事業（科研番号15K11595）による研究です
- ご清聴ありがとうございました